

港北区防災マップ

令和5年9月発行

大地震はいつ起こるかわかりません。日頃の備えを改めて確認してみましょう。

横浜市において今後30年間に震度5弱以上の揺れに見舞われる確率(2021年3月時点)

震度	5弱	5強	6弱	6強
震度確率	99.6%	86.0%	38.1%	5.8%

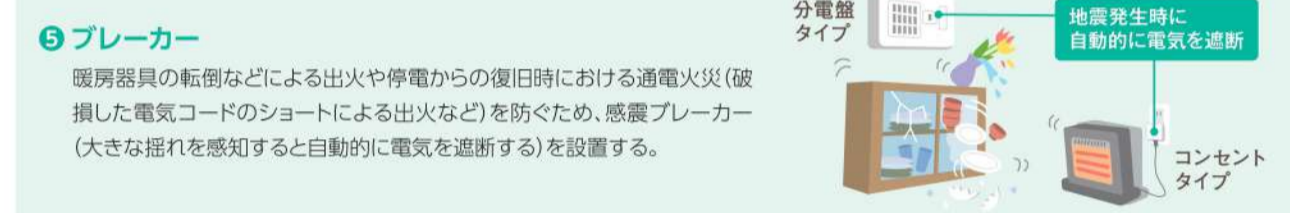


自宅の安全対策

過去の大地震で亡くなった方の大部分が家具などの倒壊による圧死でした。地震から身を守るために、また、被災後に自宅で過ごせるように、家具の固定や配置を工夫し、家の中を安全にしておくことが重要です。被害を軽減するためにも日頃から点検し、安全対策をしましょう。



- 1 家具**
金具やつっぱり棒など家具転倒防止器具を取り付け。
- 2 扉・戸棚**
扉が開いて食器等が飛び出さないよう、留め金具を取り付け。
- 3 テレビ等の固定**
耐震マットで固定する。
- 4 窓ガラス**
ガラスに飛散防止フィルムを貼る。



- 火災が発生してしまったら**
初期消火は出火後2〜3分が大事です。これ以上火災が続くと、火が天井にまわり手がつけられなくなります。ただし、大きな揺れの最中に無理に火を消そうとすると危険です。まずは身の安全を固めましょう。
炎が天井まで届くくらいになったら → **初期消火をやめ、すばやく避難**
家の外に避難したら → **周囲に大さな火災の発生を知らせ、119番通報を**
火災の規模が大きい場合 → **広域避難場所等へ避難**

避難の流れ

地震発生

その場にあった身の安全の確保

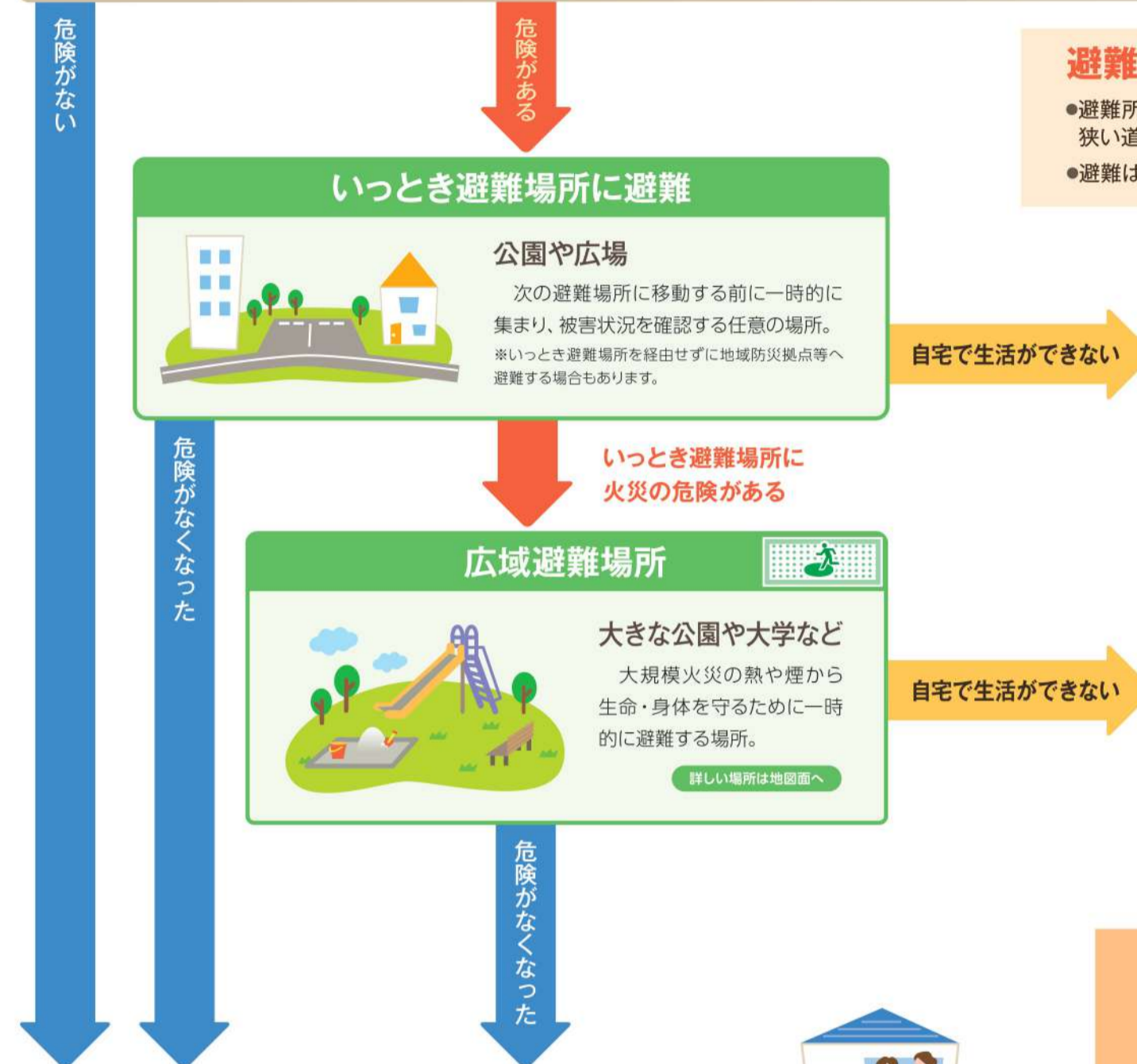
- #### 自宅にいるとき
- クッションや布団、枕など近くにあるもので頭を守る。
 - 丈夫な机の下に身を隠す。
 - ガラスの破片などでケガをしないように注意する。
 - あわてて外に飛び出さず、ドアや窓を開けて出口を確保する。

- #### 外にいるとき
- 自動販売機やブロック塀、電柱など倒れやすいものから離れる。
 - カバンなどを頭を守り、看板や外壁など落下物の危険のある建物から離れる。
 - 垂れ下がっている電線やガス漏れている場所には絶対に近づかない。
 - 道路が液状化や地割れを起こしている場所には近づかない。

- #### エレベーターに乗っているとき
- 全ての階のボタンを押して、停止した階で降りる。
 - 閉じ込められたとき、非常ボタンやインターホンで連絡を取り救助を待つ。
 - 余震の可能性もあるため、避難にエレベーターは使用しない。

- #### 車を運転中のとき
- 急ブレーキをかけず、ハンドルをしっかりと握り、徐々にスピードを落として道路わきに停車する。
 - 揺れがおさまるまで、車内のラジオなどで情報収集する。
 - 車を離れるときは、緊急で移動させることもあるため、キーを付けたままにする。

周辺の状況を確認



- #### 避難時の注意
- 避難所への移動は歩き、狭い道避ける
 - 避難は徒歩で、自動車は厳禁

いっとき避難場所に避難

公園や広場
次の避難場所へ移動する前に一時的に集まり、被害状況を確認する任意の場所。車いす避難場所を確保せずに地域防災拠点等へ避難する場合もあります。

いっとき避難場所へ火災の危険がある

広域避難場所
大きな公園や大学など
大規模火災の熱や煙から生命・身体を守るために一時的に避難する場所。

地域防災拠点

地域防災拠点の主な役割
●避難生活を送る場所
●在宅避難者が、水・食料、生活用品を確保できる場所
●救助・救出活動の拠点となる場所
●安否確認や被害状況の情報を収集・発信する場所

福祉避難所

地域防災拠点での避難生活が困難な方の避難所
区の保健師などが、心身の状態や受入施設の状況等を勘案し、福祉避難所への避難を判断します。直接避難ができる場所ではありません。

在宅避難

在宅避難のススメ!

大地震が起きたら、避難所(地域防災拠点)に避難するものだと思いますが?避難所は普段とは違う場所、知らない人との集団生活になり、ストレスをかせ、病気になる人もいます。自宅が安全に生活を送れる状態であれば、**在宅避難**をしましょう!

在宅避難する上で必要なこと

自宅での生活のために、家の対策や必要な食料品・生活必需品の備蓄をするなど、日頃から対策を進めておきましょう。

家の対策 ▶ **自宅の安全対策** **耐震対策** **共同住宅での備え** をチェック

備蓄 ▶ **備蓄品や非常持出品** をチェック

トイレ対策

地震が起きると断水や下水管の損傷等で、トイレが使えなくなることがあります。水が流れても下水管が損傷していれば、逆流することもあります。そのため、地震直後は、トイレバック(携帯トイレ)を使いましょう!

トイレが使えなくなったらどう対処しますか?

～トイレバックの重要性～

東日本大震災のとき水洗トイレが使用できなくて、トイレはかなり不衛生でした。

トイレに行くのが嫌で、水や食事の摂取を控えてしまいました。日頃から、トイレバックを備蓄しておけばよかったです。

トイレバックの備蓄の目安

家族の人数×最低3日分×一日当たりのトイレ回数想定

例えば4人家族で一日5回トイレに行くこと... **4人×3日×5回=60セット**

78% (日本トイレ研究所)

在宅避難中に物資などが必要になったら

地域防災拠点では水や食料などの物資や開放中の診療所などの情報を提供しています。水については、災害時地下水タンク、緊急給水栓、耐震給水栓がある場所でももらうことができます。 [詳しい場所は地図へ](#)

ライフラインが普及するまでの日数

ライフライン	当日	1日後	3日後	1週間後	2週間後	3週間後	5週間後
電気	13%	70%	-	97%	-	-	-
水道	-	-	24%	54%	78%	90%	-
ガス	0%	-	9%	13%	37%	95%	-

【出典】電気:東北電力HP「地震発生による停電等の影響について」、東京電力HP「宮城県地震における当社設備への影響について」、水道:厚生労働省「東日本大震災水道施設被害状況調査報告書」、ガス:一般社団法人日本ガス協会HP「東北地方太平洋沖地震による都市ガス供給の停止状況について」

乳幼児を連れて避難の基本



歩ける子でも基本は抱っこで避難

避難するときは、歩ける子であっても、だっこをして子どものけがを防ぎ、はぐれないようにします。靴も履かせておくようにし、ヘルメットや帽子で頭を守るようにしましょう。

ベビーカーで避難しない

周囲の状況にもよりますが、停電でエレベーターが動かない、また建物の倒壊等できれがさが進んでいる状況でのベビーカーでの避難は困難です。万が一に備えベビーカーに簡易抱っこひもなどを用意しておきましょう。

はぐれた時も想定して準備しておく

子どもと一緒に避難するときは、とにかく子どもと離れないようにする、これが大原則です。万が一離れてしまった時のことも考え、探すための家族写真を持っておくようにする、子どもに持たせる避難バッグに連絡先等を書いたものをポケットに入れておく(※防犯上外から見えないようにしておく)などの備えをしておきましょう。

備蓄品や非常持出品

災害発生直後は、食料や日用品の購入が難しくなります。家族構成を考慮し、必要な備蓄をしておきましょう。また、すぐ取っ出せるように非常持出品を準備しておきましょう。

備蓄する量は **1週間分、最低3日分**です。

の欄は、避難生活に最低限必要な非常持出品です。必要量をリュック等に入れて非常時には、すぐに持ち出せるようにしておきましょう。

項目	品名	チェック欄	項目	品名	チェック欄	項目	品名	チェック欄	
水	水缶・ペットボトル		貴重品	携帯ラジオ(予備電池含む)		現金(小銭も)			
	水筒			懐中電灯(予備電池含む)			預金通帳、有価証券類、印鑑		
食料品	簡易食料(ゼリー飲料等)		小物類	懐中電灯(予備電池含む)		身分証明書			
	インスタント・レトルト食品			モバイルバッテリー(携帯充電器)			傷薬、目薬、消毒薬		
	缶詰(缶切りを使わなくても開くもの)			懐中電灯(予備電池含む)			風邪薬、胃薬		
	保存食品			モバイルバッテリー(携帯充電器)			常備薬(おくすり手帳)		
食器・調理器具	皿・コップ(紙・プラスチック)		医薬品等	懐中電灯(予備電池含む)		トイレバック(携帯トイレ)			
	割りばし・スプーン・フォーク			モバイルバッテリー(携帯充電器)		トイレバック(携帯トイレ)			
	缶切り、ナイフ			モバイルバッテリー(携帯充電器)		トイレバック(携帯トイレ)			
	鍋、カセットコンロ			モバイルバッテリー(携帯充電器)		トイレバック(携帯トイレ)			
衣類等	上着、下着類		モバイルバッテリー(携帯充電器)		トイレバック(携帯トイレ)				
	帽子、ヘルメット		モバイルバッテリー(携帯充電器)		トイレバック(携帯トイレ)				
	毛布		モバイルバッテリー(携帯充電器)		トイレバック(携帯トイレ)				
	雨具、傘		モバイルバッテリー(携帯充電器)		トイレバック(携帯トイレ)				

乳幼児がいるなどご家庭の状況に合った備蓄品や非常持出品を用意しましょう。

耐震対策

●自宅を耐震診断しましょう

インターネットで、簡易耐震診断ができます。

一般社団法人日本建築防災協会 耐震支援ポータルサイト「誰でもできるが家の耐震診断」

横浜市では、2階建以下の在来軸組構法の木造個人住宅の耐震診断を無料で実施しています。分譲マンションには耐震診断費用を補助します。(対象:昭和56年5月以前に竣工 ※その他条件あり)

●自宅を耐震化しましょう

横浜市では、耐震診断の結果、「耐震改修が必要」と判定された2階建以下の在来軸組構法の木造個人住宅や分譲マンションに対し、耐震改修費用を補助します。(対象:昭和56年5月以前に竣工 ※その他条件あり)

横浜市建築局建築防災課 ☎045-671-2943

建物の耐震化支援 横浜市 建物の耐震化支援 検索

共同住宅での備え

中高層の共同住宅ではライフラインの停止によって日常生活が困難になり、各階の住人の安否確認、救護、被災後の生活などに問題が起きることが予想されます。共同住宅ならではの備えをしておきましょう。

マンションでの揺れについて

- 高層階では、大きくゆくじくした揺れにより、家具類が転倒・落下・移動する可能性が高くなるため、特に家具の固定などの対策が必要です。

備蓄について

- 各家庭での備蓄のほか、共同住宅全体でも救急用品や救助用資機材などを備蓄しましょう。
- エレベーター内の備蓄も検討しましょう。

管理組合や住人同士での協力

- 集合住宅では、同じフロアなどでの協力が特に必要です。防災設備の点検や防災訓練のお知らせなど、管理組合からの連絡に目を通しましょう。
- フロアの世帯数や年齢層などを把握し、管理組合と協力し、災害時の行動のマニュアルなどを作成しましょう。

避難路について

- 災害時には、エレベーターの使用や玄関からの出入りができなくなる可能性があるため、非常階段や非常扉の場所、ペラントの避難ハッチ(非常脱出口)や避難ハッチの使い方を確認しましょう。
- 避難器具の周りに物を置かないようにしましょう。

防災情報 ~デマや誤情報に惑わされず、正確な情報を収集しましょう。~

●横浜市ウェブサイト

横浜市の防災に関する情報を掲載しています。

●港北区ウェブサイト

港北区の防災に関する情報を掲載しています。

●横浜市避難ナビ

ハザードマップの確認や避難所へのルート検索など、平時から災害時まで一体的にサポートします。

●横浜市防災情報eメール

横浜市防災情報eメールでは、身近に迫っている緊急情報をリアルタイムにお知らせします。

●わいわい防災マップ

災害の危険性を表す各種ハザードマップ等をホームページで閲覧できます。

●ツイッター

災害時の情報が、インターネットのサービスであるツイッターを通じて配信されます。

●防災スピーカー

区役所や地域防災拠点である小中学校などにアラートの緊急情報などを放送するため、設置しています。

●ライフライン関係

【電気】東京電力 停電情報 【ガス】東京ガス 緊急ガス停止情報 【J R 東日本】 J R 東日本 運行情報

【水道】横浜市水道局 停水情報

横浜市水道局 停水情報

【JR東海】 JR東海 運行情報

JR東海 運行情報

【横浜市交通局】 横浜市交通局 運行情報

横浜市交通局 運行情報

災害用伝言ダイヤル 171

【伝言の登録の仕方】 171 → 1 → 電話番号入力 → 自分の電話番号 → 30秒以内に避難場所などを電話でお話しください。(ガイダンスが流れます)

【伝言の再生の仕方】 171 → 2 → 電話番号入力 → 自分の電話番号 → 伝言の録音を再生して伝言の追加もできます。(1分以内です)

※携帯電話の場合は、各社によって利用方法が異なりますので、サービスの確認をお願いいたします。 ※毎月1日、15日は体験利用が可能です。詳細は災害用伝言ダイヤルのウェブサイトをご覧ください。【災害用伝言ダイヤル 検索】

横浜市では、市民の皆様による自助・共助の取組の参考にしていただくために、「防災よこほま」を作成しています。詳しくは、「防災よこほま」